

小物の置き方のルールとコツ

1.フィギュアとは

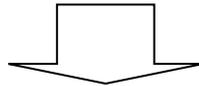
フィギュア = 置物

人形などの小物の装飾をいう。
今ではテーブルの上では食器・グラス・カトラリー・リネン以外のすべてを指す
食卓の装飾品。（脇役であり主演ではない）

花、キャンドル、塩胡椒入れ、陶花、ナイフレスト、ナプキンリング、ネームスタンド、
メニュー立て、時計、人・鳥・動物・食べ物などの形をした小物・・・等

*その中でも、食卓の中央に置くもの（何らかの手を加えたもの）はセンターピースという。

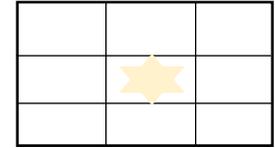
これらは「トーキング・グッズ (Talking goods)」ともいい、
楽しい会話のきっかけや食卓の物語を作り、
食卓を盛り上げるのに重要な役割を果たす。



食卓の雰囲気より楽しく演出するもの

【役割】
目で味わう・・・テーマがわかる。季節感を出したり、時代を表現したりする。
会話を楽しむ・・・初対面の人に会った時など共通の話題としてフィギュアを使う。
日本の場合、掛け軸や大皿を床の間に飾り、会話の糸口にしていた。

2.センターピース



センターピースとは・・・フィギアの中でも、特に食卓の中央に置くもの

フラワーアレンジメント、キャンドルスタンド、フルーツのコンポート等。

(アレンジされた中央の飾り)

Point

- * 食卓では相手の顔が見えることが原則なので、**目の高さよりも低いもの**を飾る。
- * どの角度からも表側に見えるものでなければならない。(四方見)
- * いくつかの物を置く場合は、トレイや器などにまとめるとよい。
- * 偶数の場合は同サイズで左右対称、奇数の場合は大中小のサイズ違いで三角を作ると簡単

<お花やキャンドルを使う時のポイントと注意点>

フラワー

キャンドル



3フィギュアの種類

●塩入れ

昔、塩は貴重品として大切に扱われてきた。
王侯貴族や支配者達はその家の位の高さを示す塩を大量に手に入れ、宴席での振る舞いに供した為、ネフが登場し、食卓装飾の主演を務めた。
現在でもティータイムなどに飾る習慣が残っている。
実際には装飾品であり、塩加減の足りないとき以外はほとんど使用しない。



●ナイフレスト

食事中にナイフを置くための道具。箸置きに似た役割がある。
正式な席では使わない。
「料理が変わってもナイフは変えません」の合図。
多種のナイフを揃える必要が無く、クロスを汚す心配がない。



●ナプキンリング

ナプキンを留めるもの。銀・木・ガラス・陶磁器など材質や色、形はさまざま。正式な席では使わない。一度使用したナプキンを次の食卓にも使用するために、家族全員のイニシャルを刻んだリングに通してしまっておいたのが始まり。



●陶花

ポンパドール夫人の頃、本物より作り物が美しいという風潮があり、ポーセリンで作ったフィギアが流行。陶花もその中のひとつ。ロココの時代を表現することができる。



●ネームスタンド

結婚式などのテーブルで、名前を書いたカードを立てるホルダー。楽しい演出のひとつ。



4.小物を選ぶ時に気をつけること

テーブルコーディネートは、

When、Where、Who、Why、Menu、Color
(いつ) (どこで) (誰と) (なぜ) (メニュー) (色)

この6つを考えて作っていきます。

なので、

この内容と関係ない物は、基本的に置きません！

(ただ可愛いから、そこにあったから置くのではなく、何故置くのか理由を言えるものを♪)



カードはなぜ置いた？



来てくださる方へのTHANYOUカード



ガラスの器は？

コースターや箸置きは？



キャンドルは？

フォークレストは？